



天王

令和5年度卒業式

「つながり」の質を高めて、さらに未来へ

3月7日(木)、校庭の木々の芽がふくらみ始め、春の息吹が確かに感じられる中、77回目となる卒業式を行いました。



【写真：卒業証書授与の場面】

ご来賓として、潟上市長様、教育委員会委員様、市議会議員の皆様、学校運営協議会委員の皆様に加え、昨年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げられたことから、地域とのつながりを大切にする本校では、今回、松陵学習の講師の皆様と天王幹部交番所長様を式にお招きし、多数の方に卒業生たちの巣立ちをお祝いしていただきました。

式では、「9年間の義務教育を終えて人生の次のステップに踏み出すということは、生まれ育ったこの土地から新たな広い空に羽ばたくということ。この「ふるさと・潟上」で培った、生きていくために必要な様々な力や知恵を自分の判断で生かしながらたくましく生き抜いていくことを期待している」とお祝いの言葉をいただきました。

教育委員会教育長 工藤素子様からは「一直線ではなく、きよろきよろと周りを眺めて回り道や寄り道をしながらでいいから、あなたの目でよく見て、心で感じ頭で考えて、全身で経験を重ねて確

かに生きてほしいと願っている。あきらめないで、様々な人やことがらと、関わり続けてほしい」というメッセージをいただきました。

伝統をつなぐ

学校における「伝統」とは、変わらない部分は大事にしながらも、その上にその年その年の3年生のカラーが重ねて塗られ、色味がさらに深みを増して継承・発展していくものだと考えます。

今年の3年生は、「どのような状況にあっても、いざというときに強くまとまり、大きなパワーを発揮する」という天王中ならではの伝統的な強みに加え、穏やかな言葉と優しく心温かな行動、さわやかな笑顔にあふれた学年でした。

さらに、「人の役に立ちたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という思いを強くもった学年でもありました。地域の一員として「まつり」を盛り上げようとして臨んだ東湖八坂神社例大祭の山太鼓、天王グリーンランドまつりの「よさこい」。そのほか、生徒総会では「東湖八坂神社のクリーンナップなど中学校として活動できることはないか」という発言もありました。社会科の授業をはじめとして、地域や社会に関心を持ち、自分なりの「社会に役立つ」役割を見つけ、自分らしい社会への関わり方を探ろうとしている姿があらゆる場面で見られました。

こうした3年生のカラーは、次の代に引き継がれていくと期待しています。

未来を切りひらく「つながり」

校長式辞では「様々な『つながり』に感謝し、今あるつながりをさらに強くするとともに、今後は、自分とは異なる考えや多様な価値観・文化との新たなつながりをつくり出してほしいと願っている。様々な『つながり』は、新たな可能性や挑戦をもたらしてくれるはずだ」と述べました。

急激に変化している現代の社会において、様々な業種、企業、人、世代、データ、機械などが「つ

ながり」、新たな付加価値や製品・サービスの創出、生産性の向上、複雑な課題の解決が図られているところです。「つながり」は、自分の人生とこれからの社会を豊かにするためのキーワードの1つだと考えています。

「つながり」の強いこの天王の地に育ち、この学校で学んだ卒業生たちにとって、この学び舎からの「卒業」が、さらなる「つながりの始まり」となることを願っているところです。

どのような社会を子どもたちの残すか

子どもたちにどのような未来を残すか。それは、私たち大人の責任だと考えています。校長式辞では、保護者の皆様に学校の教育活動に対するご理解・ご協力に感謝するとともに、「『子ども』は、未来の社会をつくり、担う、『社会の宝』『希望』『未来』そのもの。我が子のみならず、広くこの天王地区の子どもたち一人一人がかけがえのない存在として、明るい希望をもち健やかに成長できるよう、『つながりの強い』この地域の大人として互いに手を携え合い、今後も子どもたちを見守り、支え続けてくださるようお願いいたします」とお話ししました。

子どもたちが大人になったとき、ぜひ天王地区の「つながりの強さ」が実感できる社会を残したいと考えています。

卒業生を含めた中学生たちが、近い将来、その先何十年もの期間にわたって社会を支える存在であり続けることを考えると、家庭・学校・地域社会の様々な大人たちが、子どもたちを中心に据えながら、子どもたちの健やかな育ちと学びを願い、互いに手を携えていくことが重要だと考えます。今後「つながり」を重視した学校運営にご理解・ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。



【写真：卒業生による合唱の場面】

校歌3番 われら天王中学校

本校の創立は、昭和22年、終戦後まだ間もない混乱期でした。新制中学校は発足したものの国内の多くの学校では校舎、設備、教材、教員等のすべてにわたり不足していました。本校も、天王小学校の校舎を間借りしての開校でした。そうした状況下でも、生徒たちは、新しい学校への期待と喜びをもって学校生活をスタートさせました。

校歌が制定されたのは、日本が復興から成長へと向かう昭和26年のことです。自分たちの校歌を初めて聴いたとき、生徒たちは感動で胸がいっぱいになったそうです。

寒風山よ 海なりよ

伸びゆく日本に こだます

このふるさとの 雄々しさを

正しく強く うけつぎになう

われら天王中学校

これは、校歌の3番です。躍動感と力強さにあふれています。特に、最後の一行「われら天王中学校」には、生徒の一体感と強い覚悟・意気込みが感じられます（ここで校名が初めて登場します）。

校歌にある精神を確かに受け継ぎ、今後も「志をもってたくましく生きる」生徒の育成に努めてまいります。

令和5年度末教職員等定期人事異動について

令和5年度末秋田県教職員等定期人事異動に伴い、次のとおり本校職員が異動しました。今後とも変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

| | | |
|-----|-------|-----------|
| 校長 | 山田敬輔 | 退職 |
| 一関 | 隆則 | 大瀧中学校へ |
| 秋山 | 政樹 | 井川義務教育学校へ |
| 近藤 | 葉子 | 天王南中学校へ |
| 佐藤 | 達哉 | 平鹿中学校へ |
| 佐々木 | 瑛梨 | 河辺中学校へ |
| 村井 | 裕香 | 追分小学校へ |
| 伊藤 | 真由 | 桜中学校へ |
| 支援員 | 佐藤淳子 | 東湖小学校へ |
| 調理員 | 加藤尚美 | 大豊小学校へ |
| | 宇佐美桜子 | 追分小学校へ |